



教育のつどい分科会

東京都内で開かれている「みんなで21世紀の未来をひらく教育のつどい」は19日、18の分科会で、各地からの報告にもとづいて活発に話し合いました。

安心できる場を



学校づくり

「参加と共同の学校づくり」の分科会では、学校に行きづらくなった子どもやその保護者が自分たちの体験を語り、「こんな学校があったらいい」と訴えるリポートを発表。時間いっぱい討論が続きました。

千葉県の稲村史華さんは、小学3年生から学校に行かなくなった長男との日々を語りました。

活発だった息子が、ある日突然、学校に行かなくなりました。地域で「登校拒否外来」を掲げる小児科医から「お母さんは青天のへきれきだと思ってるでしょ。でもそんなことないんだよ、子どもはずっと前から苦しい気持ちを感じてきた。」と語りました。

稲村さんは3年前に学校や家庭以外の居場所をつくらうと「みんなの居場所」(童(わらべ))を設立しました。同時に「子どもに合う居場所を見つけたとしても、交通費など経済的負担も発生する。特にシングルの人の負担は重い」とし、「本当は無償で、地域にある学校が安心安全の場になってくれればいいのになあとしみじみ感じている」と語りました。

「参加と共同の学校づくり」分科会で体験を発表する京都からの参加者19日、東京都内

抱えていたんだよ」と理解を示され、道しるべになっただいいます。

稲村さんは「学校に行くのは当たり前だと思っていた。社会にたくさんある当たり前を問うことを息子が気づかせてくれて、私自身がゆるんでいって、生きやすくなった」と語りました。

不登校の小中学生が24万人います(ハ21年度)「休んでいる子を学校に戻しましょう」という表現や「適応指導教室」という呼び方は嫌だなあと思っています。学校がすべてではないし、さまざまな生き方があり、地域の居場所作りも賛成です。それでも私は、学校に子どもたちが行って行きたい場所になつてほしいと切に望んでいます。叱られたり励まされたりしなから、安心して育っていける場になつてほしいです。学校の先生方ができることは何ですか。健康でできることはいですか。

青森駅から歩いて職場に向かう途中、若者4人(外国の女の子)が住んでいるビルがあります。彼女らが自転車で職場に出ようとする時ちよと通りかかったりします。声高に話しているのが元気いっほいに見えますが、異国で暮らしているのだから本当はいろいろあるかもしれないです。会うたびに「どうぞ理不尽な思いをしませんように」とその背中に祈らずにはられません。

文責 阿部陽子 スマイルサポート(017-722-3749)



「本当にその通りです。政治を変えたい、憲法を変えるより、政治を変えるのが先です。」

白井明大

折々ことば 鷲田清一 2823

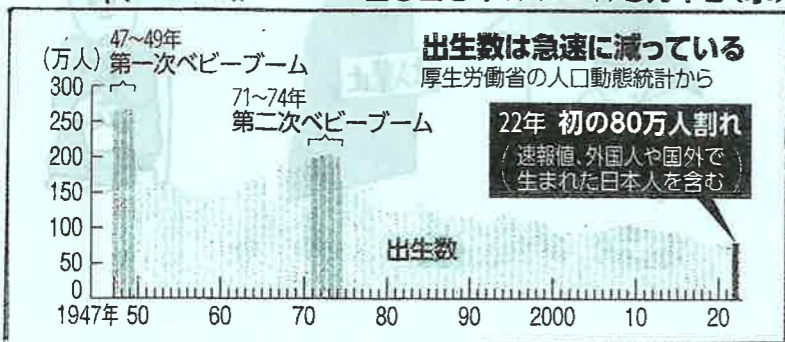
日本国憲法や労働基準法などの「詩訳」に取り組む詩人は、日本国憲法、とりわけその前文が素晴らしいのは、戦争の凄惨さを思い知らされた人々が「本心から真摯に理想を打ち立てた」からだと言っている。これがあってこそ逆に、「この30年間、人権意識や平和主義や民主主義がどれだけ後退させられてきたか、ひしひしと伝わってくる。」日本の憲法 最初の話から。

2023・8・17

暑さにすっかり負けてしまい、何でも「後で(涼くなってから)やる」と先送りしてウッドペッカーも8月は発行できませんでした。毎日が酷暑でした。9月1日(金)の夕方サアツと雨が降った時は嬉しくて嬉しくて、窓辺でずっと雨を見てました。その夜の寝心地の良さ!冷房も暖房もなくて過ごせるって何て快適なんでしょう。

朝日新聞

2023年(令和5年)3月1日(水)



皆さんの学校の子どもたちのことが知りたいです。11月3日(金、祝日)に教育のつどいが開かれます。ぜひ参加して子どもたちのことを語ってください。



団士郎
2017木陰の物語
見える・見えない

ホン
ブロン

「中三の娘がたびたび家出をします。長くても十日か二週間くらいで戻ってくるのですが…」

「携帯電話を持ってますから、連絡はとれるんです。でもね…」

「兄は大学受験の追い込みに入ってますし、頑張り屋だから、つい親もそちらに…」

「中学校に行っても、お友達はみんな受験だ塾だと盛り上がっているらしくて…」

「問題を起こして先生の手を煩わせている子もいるらしいですけど、うちのは、そういうタイプでもなくて…」

「もともと不登校気味なところもあって…」

「民間の居場所っていうんですか、ああいうところも見学に連れて行ったことがあるんです」

「な、ま、ここは私の来るところじゃないって…」



居心地の善し悪しはあるだろうが、たいていの人は自分の居場所や戻る所を持っている。

引きこもっている人だって、自分の場が確保されているからこそだ。

子どもの場合、それはほとんどが自宅だ。

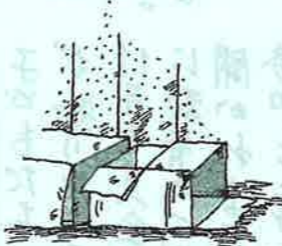
「この前、戻ってきた時に問い詰めましたら、ホームレスのようなおじさんの所に泊めてもらっていたって…」

「とにかくお風呂に入らせて、着ていたものは全部捨てました。いったい何を考えているんだか…」

圭子さんが母には分からない。それでも娘のことなのだからと分かるうとする。

しかし年頃の娘なのだ。心配でないはずがない。

「それが今頃になって高校に行きたいって言い出しまして…」



つづく